

2018年～2019年アーチェリー連盟に報告された事故 一覧

No1

<p>高校 2018年 1月6日</p>	<p>顧問指導下での50mの練習中、2年生男子部員のカーボン矢(ACE・スピンウイングヴェイン)がレストアップして、的小屋上方に設置された防矢ネットに当たるも貫通してしまった。 矢は隣接する(株)レンティック中部浜松事業所の許可を得て探して同事業所敷地内にある調整池内で発見された。 該当生徒は前日から50mを300点前後で射っており、このとき取りかけが力み、偶発的にレストアップしたようである。 緊急処置と対応 直ちに練習を中止して顧問が会社の許可を得て矢を探して謝罪。 管理職に報告し、事務長と顧問とで再度会社側に謝罪。 防矢ネットの修繕が終わるまで50mの練習禁止とした。</p>
<p>高校 年 15日</p>	<p>2018 1月</p> <p>18mの練習の為に的台に向かって矢を射ていたところ、本人の放った矢が発射の衝撃で矢が中央部分から折れた。前方部分は的に刺さり、後方部分が本人の押し手(左手)の親指付け根部分に当たり、指先へ向かう形の裂傷をおわせた。 本人の親指の付け根に当たり2針縫う裂傷。家庭への連絡と家族への引き渡しは完了している。 矢を射た生徒は行射の前には矢に異常は感じておらず、折れて初めて矢の劣化に気が付いたとのこと。</p>
<p>協会 公共の 練習場</p>	<p>4月1日</p> <p>高校生が射場一番左側のレーンの60m射線より行射したところ、跳ね返った矢がフェンスを越えて反対側の初心者レーンに飛び出し、矢が初心者レーンで練習中の小学生の右上腕部にあたり裂傷を負った。 直ちに救急医療センターへ搬送し外科を受診した。診察の結果は、幸いに全治1週間ほどの軽症であった。また、小学生の親及び関係部署に連絡を取り、速やかな対応により被害者ご両親が謝罪を受け入れている。 再発防止として、フェンスの上部に防矢ネットを新設と、注意喚起として、各傘下団体に事故内容の報告を行っている。</p>
<p>協会 公認大会 競技会中</p>	<p>4月22日</p> <p>地区春季アーチェリー大会の競技中(後半2エンド終了後) 看的のための前に移動した際、本人の不注意で、的中した矢のノックで脛を負傷したもの。 本大会の開会式にて競技上の請注意として、看的の際の矢取り等においては、十分注意するよう指導していた。 負傷後の対応 試合を一時中断し、救急車を要請。 (コーチが同行し、病院へ搬送) 競技会場での応急処置として、アイシングを行った。 眉間の切傷(眼球損傷無し全治5日程度) ※矢取の時、的の正面には立たない。矢を抜くときは後方の確認を行う。</p>
<p>高校 2018年 校内射場</p>	<p>7月29日</p> <p>校内練習場にて10mの距離を練習中に発射した矢が逸れ、近くにいた部員の右前腕に刺さった被害あった選手は、休日救急診療所を受診したところ、幸いに矢が刺さったのは表面部分であり、骨や神経等を傷つけてはいないため、化膿止めと痛み止めの薬を処方する。 数日後、傷は順調に治癒に向かっており、医師の許可を得て練習に参加している。 部員5名が10m先の的に向かって矢を射つ練習中に、矢が右に大きく逸れ、雨のため小体育館入口階段の右端に待機していた部員の右前腕に刺さった。 矢を射た際、弦を持つ手が滑り、弦が戻りながら手を離す状況になってしまい、弓を引く力と押す力のバランスが崩れ、思わず弓をもつ腕を右に振ってしまい、矢が大きく右に逸れたと推測される。 矢を射つ地点より前方の遮蔽物がない場所に被害者が待機しており、そのことの危険性について十分に部員が認識をしていなかった。前方に人がいるかの安全確認の怠りが原因と考えられる。</p>
<p>協会 公共施設 練習場</p>	<p>2018年 8月14日</p> <p>コンパウンドボウ練習中に誤射により矢が練習場を飛び越えて、後方約200m離れた介護施設に飛び込み3階の窓ガラスを破損した。幸い入居者への被害はなかった。 練習中に、ドロ잉の過程で暴発し、矢が射場の的方向の防矢ネットを越え、的上の後方に位置する介護施設の3階部分の窓ガラスを破損したもので、人身被害はありませんでした。 射場には、標的(地面に水平)に向けてドロ잉を行えば、例え暴発が発生しても場外に矢が飛び出すことがない程度(地上約8m)の防矢ネットの備えがある。当該選手は以前に射線上部のネットによって矢の飛び出しを防げた実績があり、その時点で射型の是正指導を受けセットアップ角度について注意をしていた矢先の事故であった。 防矢ネットを越える角度に矢先が上方に向けられていたことが最大の原因と考えられる。 事故発生後、射場の安全対策工事終了まで使用を中止している。 被害施設に関しては、施設管理団体が示談交渉を進めている。 協会として、今回の事故を教訓とした注意喚起文書を統括団体に配信している。 また、事故の発生した施設所属会員への規則・規程等の再確認と安全意識への定着を図ることを確認している。 今回の事故を受けて、協会は行射の時前方の安全確認と、前方に人がいないことの確認を行う事に対して、大会等を利用して指導を行った。</p>

高校 9月19日 校内射場	<p>練習場内で近距離の行射中に起こる。発射時に矢のノック側から15cmほどの箇所が折れ、折れた矢が押し腕にあたり裂傷。すくなく救急搬送し応急処置をしてもらった。傷は深さ5mm、長さ3cmほどで神経には至つていなかった。</p> <p>翌日専門医に見てもらった結果、経過を見て、必要な場合に縫合や皮膚移植など考えようということになっていたが、今は、痛みはあるが、自然に回復するとの判断が出て、医師から翌日から練習復帰の許可が出ており、日常生活には支障がない模様であった。</p> <p>現場に落ちていた矢を確認したところ、過去についてと思われる傷が見受けられた。もしかしたらダメージを最も受けた箇所が、発射時の衝撃に耐えられずに折れたのではと推測している。</p>
高校 2018 10月23日 校内射場	<p>70mの練習中、矢をつがえてフルドローをしたところでレストから矢が落ちたが、当該生徒はそのまま発射してしまった。その結果、矢は的に向って左方向にダウンした後、地面を這うようにして進み、左側面にある防矢ネットの下を潜って、隣接するグラウンド方向に飛び出した。当該生徒の申告を受け、部員全員で矢探しを行ったが回収できなかったが、その後、野球部員により発見され回収された。</p> <p>現場検証の結果地面から1メートルのところに防矢ネットに穴が開いていることが発見された。防矢ネットの劣化が激しいため、防矢ネット全てを張り替えと、アーチェリーレンジ側に土嚢を積み上げ、矢止め対策を行う事とした。</p>
協会 11月3日 競技中	<p>インドア記録会中にコンバウンド男子の選手が弓を引いてくる途中、リリーサーのトリガーに指が触れて発射したものと思われ、的後方の体育館歩廊部の窓ガラス1枚を破損し、窓ガラス外側の鉄製のルーバーを陥没させた。</p> <p>矢は、ルーバーに当たったため屋外に出ることはなく歩廊部で発見された。</p> <p>当該選手には、厳重注意の上、行射の状況を確認したが、引き起こし時にやや矢を上方に向ける動作は認められたが、ドローイング自体は水平に行っており、その後は、危険行為が繰り返される恐れがないと判断したため、競技は続行させている。</p>
大学 2019 3月15日 大学練習場	<p>レストアップにより矢が射場の外へ落下</p> <p>午前9時半頃、男子部員が練習中に50メートルの距離から放った矢がレストアップにより、ロストしました。練習終了後、大学へ矢の紛失について報告いたしました。</p> <p>大学職員の方が事実確認のため、学内射場及びハンドボールコート の状況を調査した結果、的の奥に張ってある防矢ネットに矢のノックが発見されたことから、レストアップした矢は防矢ネットを貫通し、ハンドボールコート内に落下したと推測されました。</p> <p>※ 安全が確認されるまで、学内射場を使った練習及び試合を禁止することが決定した。</p> <p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技技術が不足しているにもかかわらず、長距離での行射をしたこと。 ・弓具(タブ)の消耗及び破損がありながら行射を続けたこと。 ・本来であれば練習を中断し、部員全員で捜索を行うべき状況であるにもかかわらず、紛失したことを当部主将が報告を受けるに留まり、練習が続行されたこと。 <p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習及び試合での行射中は選手同士互いに安全確認を行う。 具体的には、長距離での行射時は必ず2人以上で射線に立ち、隣に並んでいる選手の矢がレストアップしていないことを確認する。 レストアップしていることが認められた場合、引き戻すよう忠告する。 ・弓具の点検・整備を徹底する。 ・矢を紛失した場合は直ちに練習を中断し、部員全員で捜索を行う。 <p>原則として、矢の捜索及び回収は当日中に行うものとする。</p>
2019 高校 3月18日 校内射場	<p>近隣住民より当該学校に以下の内容の電話が入った。「家の敷地内にアーチェリーの矢が刺さっているのを確認した。家には小さい子供もおり大変危険である。その矢にはアルファベット2文字が書かれていてアーチェリーの矢だと思われる。矢は保管してある。」との連絡である。この家はアーチェリー場の的から東に80メートル程離れた所である。</p> <p>報告の怠りであり、70mの練習をした。矢取り時に、矢が1本無くなったことに気づき先輩に報告したが、顧問には報告をしなかった。畳上部の巻葉に入ってしまったのではと判断してしまった。矢の飛行経路を推測すると、70mの上にある7mの防矢ネットを超えて飛び出したと考えられる。当該校では、部員を集め状況を報告し、安全管理の不備と活動の取り組みについて反省すると同時に、一時活動停止して安全確認が十分に取られた後に再開をしている。</p>

<p>高校 4月22日 公設射場内</p>	<p>2019 射場外への矢の飛び出し 放課後貸し切りの練習場にて、翌日からの体験入部の準備として、新入生が使用する弓(学校備品)の確認を行っていた。部活動顧問はついておらず、射場は専用利用のため部員のみであった。弓の確認として、部員A(3年)は近射をおこなった。矢は部員B(3年)が以前使っていたアルミ矢を使用した。その際、シューティングラインより標的側面に前進していた。部員Aは、近射よりも距離を伸ばそうと考え、標的側から20メートルほど離れた。距離があるので矢が下がると考えて、上方向を狙って行射した。矢は標的面上のネットを飛び越えて場外へと飛んでいった。部員AとBは、場外へ矢を探しに行っていたが見つからなかった。射場管理者や部活動顧問へは報告をしなかった。 5月になり、施設会場の職員が巡視をしていたところ、屋内プールの屋根に矢が刺さっているのを発見した。 生徒の報告怠りにより問題が発生している 学校の対応として：今後、顧問不在時には弓を使用した練習を行わないこととした。</p>
<p>娯楽施設 5月4日 射場内</p>	<p>2019 娯楽施設して開業しているアーチェリー場で危険行為が行われているとの連絡が入る。 ・客が複数いてアーチェリーの体験行射してる時に、前に出て矢を回収している。 矢を放っている人がいるときに、前に出て矢を回収することは禁止されているはずで、女性スタッフに注意しましたが、アーチェリーの知識があまりないようで、理解をしていなかったの、そこに常駐していたアーチェリーのライセンスを持っている若い男性スタッフに注意をしました。ライセンスを保持している男性スタッフは「安全に注意していますので大丈夫です」と何度も私に言い早く帰ってくれと言っているような態度でした。 連盟より指導をお願いしたい。 ※本件を受けて施設の有る県協会に連絡を入れ、現状調査と確認を要請し問題が確認できたら「安全への指導と注意」をお願いした。 結果：連絡してきた人は園内でアルコールを飲んでい申込み対応時にアルコール臭もしたため、「規則で飲酒された方は射てません」と対応したが、「俺は呑んでない」「以前にも射った経験があるので大丈夫だ」との事で「射たせる」「呑んでる方には射たせられない」との押し問答があり、最終的に押し切られて射たせてしまったが、それも不満そうだった。 協会は今後の対応として以下の指導を行い解決した。 1. 本人も含めスタッフに安全管理の徹底を行わせる。(矢取り以外でも) 2. 矢取り時には、ハンドマイクやメガホン等で場内の者に矢取りを行うことを伝え、行射を止めさせる。 3. 場内にも「安全な行射について」の注意を掲示し、受付時にも客に確認させる。 4. スタッフルームに今回のクレームを掲示し、再発防止に努める。 5. 飲酒の疑いのある客や注意に従わない客についての対応を厳格に行う。</p>
<p>協会 2019 5月12-13日 弓具盗難事件発生</p>	<p>アーチェリー場クラブハウス内に保管していた、弓具2セット(ケースごと)・弓道具2セット(単体)・タブ・アームガード等各1個矢約80本(6人分)が夜間は無人となる倉庫より紛失した。 いずれの部屋の入り口の扉やガラス窓の破損は無く、外部壁の外部掲示板内の置きに置いてあった鍵を部外者が見つけ、この鍵で内部に侵入しようである。 警察へ通報し有効な対策が施されるまでは、弓具を射場に保管しない事として、施錠・鍵の管理・扱いの見直と防犯カメラ等のセキュリテをを導入するとした。</p>
<p>協会 7月26日 公設射場内</p>	<p>2019 矢の練習場外への飛び出し 事故発生当時、当該協会員は1人で練習していた。 セットアップ時の角度は水平、アンカーに入ってからリリースのセーフティ解除。 エイミング中に顔向きの角度に気を取られ暴発、矢は射場的な方向の防矢ネットを飛び越え、後方約105m離れた南二日町市宮住宅C棟107号浴室付近の窓ガラスを破損。 通常のセットアップ、ドローイングでのシューティングであれば、たとえ暴発しても地上約6mに設置されている防矢ネットを飛び越えることはないと思われるが、暴発時に押し手が緩み肘が曲がったために矢が射場を飛び越えたのだと推測される。 当日の体調面では問題なかったとのこと。 エイミング中の顔向きに違和感があれば、その時に引き戻しをすれば防ぐことができた事故である。 また、普段の練習時からシューティングにやや不安な面も見せており、当該協会員の体力面と技術面から判断してピークドローウェイトを落とすほうがいい、と他の協会員から指摘されていたが、大丈夫だからと過信していたことが今回の事故に繋がったのだと思われる。 対応・対策 矢の回収、再発防止として既設防矢ネット手前30m付近に矢止めを新設、全協会員に報告と注意喚起を行った。 射場の安全対策工事が終了し、安全性が確認できるまで全協會員の射場の使用禁止、当該協会員には現在の体力と技術の問題から適正な弓具を使用(ポンド数を落とす)するよう改めて指導、そして、安定したシューティングができるようになるまでアーチェリー場での練習下した。禁止の処分をした。 矢止めフェンスの新設 協会員への安全教育、危機管理についての徹底した指導 正しいシューティングの指導 自己管理のコントロール(少しでも不安を感じたら射たない) 指導員の教育 適正な道具を使い、自身の技術に合った練習をする</p>

<p>高校</p> <p>2019 11月2日 校内射場</p>	<p>場外への矢の飛び出し 近隣医院の窓を突き破りトイレに飛び込む</p> <p>50mの距離で矢が垂れて的に届かない1年生の選手がいたため、他の選手が協力して照準の調整をしていた。</p> <p>当該選手の技術は未熟なため、翌日の試合は50mの距離には出場しないで30mから出場する予定であったが、なんとか試合で射たせてやりたいと思い1・2年生で行った。かなり上向きで発射する設定にしても下方に行くため、他の1年生が手本を見せようとその選手の弓で1本発射した。その1年生は技術があり、また遠方へ届く自分の矢で射ったため、的面上方の高さ7mのネットの上方を越え矢が場外に飛び出した。</p> <p>その後部員たちで矢の捜索に当たった。約20分後に顧問が練習場に行き、状況を確認する。後方に飛んでいる可能性が高いため確認したところ、学校東側の医院の窓ガラスに孔を発見する。医院は午後休診中では不在であった。顧問が院長先生の奥様に連絡を取り、17時30分頃に奥様において頂き内部を確認する。ガラスを破った矢がトイレの引き戸に当たり、床に落下していた。医院に伺い謝罪と状況説明を行う。</p> <p>対応と対策 被害地主への謝罪(教頭・部活顧問) 練習の停止 安全対策の検討 行射方向の変更及び安全対策</p>
<p>協会</p> <p>2019 11月3日 競技会中</p>	<p>大会競技中(コンバウンド部門)ドロウイング中リリーサーフックロープ上部が切れ(ループが外れた模様) 体育館ステージ上部に矢を打ち込んだ。</p> <p>破損部分に明確な経年劣化は見られず、事前の弓具検査においても異常は発見できない状況であったこと、また、選手も長くCPの競技に携わり、常にメンテナンスを行っており、ドロウイング方法についても問題はなかったことから、事前に予測は困難であった。</p> <p>本人については直ちにウェイトングライン後方に下がらせ、他の選手及び役員にケガ人が無いことを確認した。その後に行射については時間まで実施し、行射終了後に打ち込まれた矢を回収した。審判長が弓具の破損状況を確認したが、当該選手については、本人の申し出もありその後の競技を棄権している。</p> <p>再発防止に向けて……CPの選手に対してはその場で、道具の再点検及び今後の練習における射形の再確認を実施して頂くように指導した。併せて、大会閉会式においてRCの選手を含めた当日の参加選手に対して、同様の事例発生のないように、弓具や射形を見直して頂くこと、各高校の顧問教員には事故防止の観点で選手生徒に指導頂くように依頼している。</p>
<p>高校</p> <p>2019 11月2日 練習場</p>	<p>公設の練習場で外への矢の飛び出し 近隣している医院の窓を突き破り、トイレに飛び込む事故が発生。</p> <p>50mの距離で矢が垂れて的に届かない選手がいたため、他の選手が協力して照準の調整をしていた。当該選手の技術は未熟なため、翌日の試合は50mの距離には出場しないで30mから出場する予定であったが、なんとか試合で射たせてやりたいと思い仲間たちで指導を行っていた。かなり上向きで発射する設定にしても下方に行くため、他の同年齢の選手が手本を見せようと、その選手の弓で1本発射した。その見本発射した選手は技術があり、また遠方へ届く自分の矢で射ったため、的面上方の高さ7mのネットの上方を越え矢が場外に飛び出した。</p> <p>その後部員たちで矢の捜索に当たった。約20分後に顧問が練習場に行き、状況を確認する。後方に飛んでいる可能性が高いため確認したところ、学校東側の医院の窓ガラスに孔を発見する。医院は午後休診中では不在であった。顧問が院長先生の奥様に連絡を取り、17時30分頃に奥様において頂き内部を確認する。ガラスを破った矢がトイレの引き戸に当たり、床に落下していた。院長先生は静岡に出張にでられたため、翌週5日の朝7時30分に医院に伺い謝罪と状況説明を行う。事故のあった時間帯は院長先生が残って仕事をされていたがそのときは変化に気づかず医院を離れられたようである。</p>

2020年5月10日現在

事故情報を共有して、安全対策のヒントとして活用ください。

いかなる事情があっても、アーチェリーで人身事故が発生した場合たとえそれが軽微なものであっても、外部に与える衝撃は少なくないことは言を待ちません。原因の如何、負傷の軽重を問わず、事故はその結果のみが問題となり、引いてはアーチェリー界全体に大きなダメージを与えることとなります。

本連盟で定めました「安全規程—アーチャーの安全マナー」を再確認していただき、安易に流れないで競技会開催と練習中とを問わず、これまで以上の安全意識をもってアーチェリーに取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

公益社団法人全日本アーチェリー連盟